

ABILITY

ABILITY Pro徹底攻略!

その1

国産DAWの雄「SingerSongWriter」の後継「ABILITY」登場!!

現在、ほぼ唯一の存在となった国産のMIDIシーケンサー/DAWソフトとして、ユーザーに支持されている「SingerSongWriter」シリーズ。同ソフトをリリースするインターネット社は昨年、創立25周年を迎えました。そして、今年は新しい25年に向けた1年目となり、「SingerSongWriter」は「ABILITY」へと名前を変え、さらなる進化を遂げます。このページでは、ABILITYの新機能や使いこなし術を紹介していく予定です。第1回はABILITYの特徴とSingerSongWriter 10からの進化ポイントを抜粋して解説しましょう。(文：平沢栄司)



ABILITY Pro 価格：56,000円(税別) ABILITY 価格：30,000円(税別)

充実機能の「ABILITY」とさらなる高性能を求めた「ABILITY Pro」の2本立て

ABILITYは、通常の音楽制作に必要な十分なスペックを持つ「ABILITY」と、主にプラグイン関連の機能を充実させて大規模な制作にも対応できるスペックを持った「ABILITY Pro」の2つのパッケージが用意されています。SSWを知る人なら、「Standard」と「Professional」の関係をイメージすると良いですね。

上位版のABILITY Proでは複数ソングの同時編集やAUDIOトラックへ録音する際にRecエフェクト(最大8つ)の「かけ録り」が可能で、複数のミキサーウィンドウを搭載。オーディオ・トラックではフェーダーの前に挿入する8つのインサート・エフェクトに加えて、後ろにも8つを加えた16機のエフェクターが使用でき、最大64機のVSTインストゥルメントが扱えるといったところが主な違いとなっています。また、付属プラグインでは、Sonnox製のエフェクトや新規に用意されたオリジナルのエフェクト、そして、LinPlug製とNI製のソフト音源が付属する点が異なります。それらのスペックや標準装備の違いを吟味しつつ、自分の制作スタイルや予算に応じてセレクトしてください。それでは、ABILITYの注目ポイントを紹介していきます。

高品質なサウンドでレコーディングが可能

まず、DAWソフトの心臓部であるオーディオ・エンジンに注目。最大で24bit/192kHzまでのオーディオ・フォーマットに対応し(使用するオーディオ・イン

ターフェイスの仕様の上限を超えることはできません)、64ビット浮動小数点モードで処理されるハイスpek的なものとなっています。CDを大きく超える膨大なデータ量でサウンドをデジタル化でき、マルチ・トラックの

プラグインはVST2に加えてVST3にも対応

曲作りに欠かせないプラグインは、エフェクト/ソフト音源共に「VST3」に対応しました。従来からある定番のプラグインはもちろんのこと、これから更に増えるであろうVST3対応の新しいプラグインも即戦力として使うことが可能です。また、先程も触れましたが、Proに付属するプラグインには、Sonnox製の高品質エフェクトとしてノイズ除去に便利な「Sonnox Restroration (De-Buzzer, De-Clicker, De-Noise)」の3種を追加。オリジナルのエフェクトも「Vocoder」が2種と「Loudness Meter」の3



新しく付属するプラグイン。曲作りやミックスに活躍してくれるだろう

ミキシングやEQ&エフェクトによる音作りの際は、演算によるデータのオーバーフローが起こりにくく、余裕をもって処理できます。つまりは「音が良い」のです。

種が追加されています。そして、音源では昨年リリースされたばかりのLinPlug製のシンセ「SPECTRAL」が付属し、従来からある音源と合わせて打ち込みによる伴奏トラック作りをサポートします。



複数テイクの管理と編集が容易になったオーディオ・トラック

オーディオ・トラックにはバーチャル・トラックが用意され、1つのトラックで複数のテイクを管理し、マウス操作でOKテイクを選択して、ベストなテイクを完成させるコンピング機能も搭載されています。また、レコーディングだけでなく、オーディオ素材を読み込んで、ソングのテンポに同期したループ再生やピッチのエディットなども可能。さらに、本格的な波形編集ソフトに匹敵するウェーブ・エディタ画面で編集を加えることもできます。



複数のテイクを録音し、マウス操作でOKテイクを選んで仕上げる事ができる

国産ソフトならではの「打ち込み」に強いMIDIトラック

MIDIの打ち込みでは、わかりやすいスコアエディタやマウスで直感的な入力ができるピアノロールエディタを中心に、それぞれの画面にきめ細かな数値入力可能なステップエディタを装備。海外勢にはない国産ソフトならではの打ち込み体験が可能です。MIDIフレーズをAUDIOフレーズのようにループ操作で扱い、テンポやコード進行を反映して使用できます。また、演奏中に聞いたフレーズを演奏すれば、瞬時に入力されMIDIファイルで保存。メディアブラウザからドラッグ&ドロップで使用可能です。



マウス入力と数値入力が共存し、直感的な入力ときめ細かな調整が素早くできる

VOCALOID 3 Editorとの連携機能を搭載

SSW 10からサポートされたVOCALOIDとの連携機能も継承しています。専用のプラグインをVOCALOID 3 Editorにインサートすることで、ABILITYとVOCALOID 3 EditorをReWire接続して同期演奏することができ、VOCALOIDの歌声をABILITYのトラックに立ち上げてミックスや音作りを行うことが可能となります。

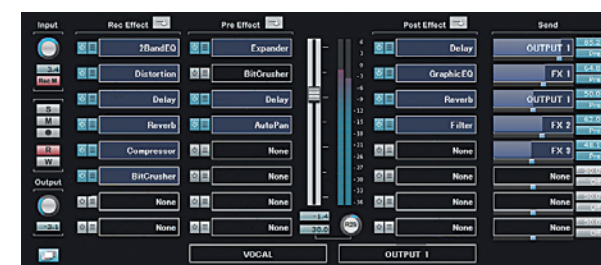


他のDAWソフトでは不可能なVOCALOID 3 Editorとの同期が可能!

トラックごとにミキサーの設定が俯瞰できる「インスペクター」を搭載

DAWのミキシングは、パンやフェーダーといった基本的な要素以外にもインサート・エフェクトやセンド関

連、その他の設定などパラメーター数が多く、ミキサー画面のストリップの中ですべてを把握するのは大変です。ABILITYには、各トラックごとに開く「オーディオミキサー・インスペクター」により全パラメーターの設定状況を俯瞰したり、素早くアクセスして調整することが可能となりました。



ミキサーのパラメーターの視認性と操作性が格段にUPするインスペクター画面

ハモリが簡単に作れる、進化したボーカルエディタを内蔵

SingerSongWriter 10から搭載された「ボーカルエディタ」はソフトを追加することなく、レコーディングしたボーカルのピッチや発音タイミングをマウスで簡単に修正できる便利なものでした。ABILITY Proのボーカルエディタでは、新しくハーモナイズ機能を搭載。伴奏トラックに入力されているコードを解析して、そのスケールやコードのハーモニーに即した最大4声のハーモニーを作成することができます。



自動的に3声までのハモリの作成が可能となったボーカルエディタ

曲作りをサポートする様々な素材を快適にハンドリング

SSW時代からの特徴が、膨大なアレンジ・データを利用した伴奏トラックの作成機能や豊富なMIDI/Audioフレーズ、コード進行のデータベースといった曲作りをサポートする機能です。これらの素材には、内蔵のメディアブラウザから一括でアクセスすることができ、ドラッグ&ドロップでトラックへと貼ることでサクサクと曲作りを進めていくことができます。

デスクトップとノートで使い分けることもOK

USBメモリを利用したアクティベーションに対応したことで、1本のソフトを複数のパソコンにインストールして使い分けることが可能になりました。USBメモリがアクティベーションの鍵として機能し、USBメモリを装着したパソコンでのみABILITYが起動します。例えば、ノートパソコンでスタジオに持ち出し録音してきたソングを自宅のハイスpekなデスクトップ機で存分に編集したり、そのトラックをステージに持ち込んでライブパフォーマンスに活用するといった使い方ができます。

付属のCOMPLETE ELEMENTSはUSBメモリのアクティベーションには対応していません。

無償バージョンアップ&クロスアップグレード版を狙え!

つい先日、SingerSongWriter 10を買ったばかりだよ...という人も安心して下さい。2014年4月10日以降の購入なら、購入日がわかるレシートや領収書を添付して申し込み、最新のABILITYに無償でバージョンアップすることができます(バージョンアップ・優待販売で購入の場合は申し込みの手続きは不要)。また、既に他のDAWソフトを持っているなら、通常価格よりもお買い得なクロスアップグレード版が狙い目です(初回限定版はさらにお買い得)。この機会に、海外製DAWソフトとは一味違う、国産ならではのDAWソフトを手に入れてください。